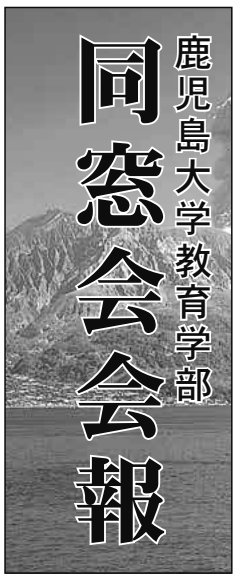

鹿児島大学教育学部
同窓会会報

第23号
令和３年９月27日

発　行
鹿児島大学教育学部同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
TEL・FAX
099-285-7718

●同窓会ホームページ
http://kue-dousoukai.com/

編集・印刷
濱島印刷㈱

新たな同窓会活動の準備

鹿児島大学教育学部同窓会会長　東　寛治

大規模改造された教育学部管理棟の白い建物が夏空に映えています。その二階にある同窓会事務局の窓を開けると、熱風とともにピアノの音も入ってきました。新型コロナウイルス感染症の不安はまだ付きまとっていますが、学生たちの高い志は維持されているようです。

さて、昨年度に引き続き今年度もコロナ禍の中で定期総会や懇親会、鹿児島の教育を語る会を中止し、皆様には大変ご迷惑をお掛けしましたが、深いご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

特に、同窓生同士が直接交流できる機会がなくなり、同窓生の心の中から「同窓会」が薄れてしまうのではないかと心配しましたが、３面に掲載しましたように、多くの方から貴重な「同窓会運営協力金」をいただき、同窓会に寄せる思いが変わるどころか、ますます厚い情になっていることに深い感銘を受けました。本当にありがとうございました。

このような同窓生のご厚情にこたえるためにも、同窓会活動の本旨である「仲間意識」「連帯感」「母校愛」を育む場を失ってはならないと思っています。

コロナウイルス感染症の収束の見通しは立ちませんが、いつまでも他者との接触を避け続けていくわけにもいきません。大勢で密に集まることができないのであるならば、大勢で集まらなくても会員相互の交流が図られる方法等を考える必要があります。コロナ収束の日を待ちつつも、コロナとの共生の時代にふさわしい変化と対策が、今私たちに求められています。

そのことを自覚し、新たな同窓会活動の準備を始めなければなりません。

小さなグループによる交流会や会合、SNS等を活用した小さなつながりを大きなつながりに広げていけないものかなど、今後検討してみたいと思っています。

例えば、次のようなことであります。

・県内にある12の支部を生かした同窓会活動
・各学年、各専修学科で構築しているメーリングリストやグループラインの活用
・オンラインによる会議
・３密や飲食を避けるスポーツ大会（ゴルフ等）の開催等

同窓生の皆様のアイディアも是非お聞かせくださいますようよろしくお願いいたします。

ワクチン接種が進み、平穏な日常が早く戻ってくることを願いながら、皆様方とお会いできる日の早からんことを念じております。

コロナ禍の状況を通して考える私たちの生き方

鹿児島大学教育学部長　有倉　巳幸

コロナ禍の状況が続いてはや一年半が過ぎようとしています。この状況の中、感染拡大を防ぐため、様々な制約が課せられてきました。コンサートなどのイベントや県外移動、大勢で集まっての会食など、それまで私たちの日常にあった活動が激減し、それに代わってオンラインでのイベントや会議、テイクアウトや宅配が普及してきました。

大学でも、このような中で感染対策をしつつ、対面授業をどのように実施するかを工夫しました。私の授業でもカウンセリングのロールプレイを行うため、３回に分けて10人ずつ対面授業に参加してもらい、残りの学生はZoomで参加するという方法を採りました。オンラインでの音声の聴き取りにくさはあったようですが、意図した内容の意見交換はできていたようでした。また、学生たちも、対面授業とオンライン授業の両方を受けるために、学部にあるアクティブラーニングプラザ等を活用して受講していました。

人間は本来、自発的な存在であり、置かれた環境に自ら働きかけ適応していきます。そのため環境が変われば、試行錯誤したり、周囲の適応的な行動を模倣してみたりして適応しようとします。コロナ禍の状況でのこうした対処は、置かれた状況に対する工夫の結果として考えることができます。

一方で、それまでに身に付いた対処ができないことは、それまでの経験を否定することにもつながります。また、環境に適応しようとすることは新しい学習を必要とするので、不安などのネガティブな感情が生じて心身共に緊張し、疲れやすくなります。これをストレスというのですが、その点でコロナ禍の状況は人々にとって大きなストレスとなりました。不快な感情を伴うストレスは早く解消したいと動機づけられるので、それがときに他者への攻撃や中傷を生み出すことがあります。攻撃や中傷を行う人は、それによって一時的にストレスを解消できるかもしれませんが、排除を生み出すこうした言動は、社会全体を暗雲低迷とした状況に陥らせてしまいます。

コロナ禍の状況は、社会の中にいる私たちの生き方について改めて考える機会を提供してくれました。一人一人がこの状況をどう受け止め行動するかが問われています。

退任に当たって

教育学部同窓会前副会長　文城　テツ子

コロナ禍の中で周りの方々との会話もままならない日々を過ごしています。

希望して教育学部に入学し、念願の教師になり、退職後は同窓会の仕事までさせていただきました。感謝！感謝です。でも80歳を過ぎ、歳相応の知力・体力を自覚し、退任させていただきます。

昭和20年４月８日の空襲で父を亡くし、流浪の生活でしたが「根あか」の性格で、どこに行っても「笑顔」で皆さんによくしていただき、教職を全うすることができました。中でも「同窓会」の仕事は楽しくやりがいがありました。

副会長としては、部員の皆さんと協力して『同窓会会報』を発行しました。

これは、学部長をはじめ、関係する教授、日本国中で活躍されている教育学部卒業生、在学している学生さんのご協力をいただき、お届けすることができました。

また、教育学部同窓会の大きな行事で、現存する『教育を語る会』では、学生さんの教育に対する熱意と質の高さを感じました。そこでは、社会で活躍していらっしゃる講師の方々の話が印象的でした。

続いて、沿革之碑建立や教育学部同窓会設立20周年記念式典です。沿革之碑が建立され、『我が友よ』という同窓会の歌も発表されました。

このように素晴らしい教育学部同窓会の中で役を終えることを幸せに思います。

未来に輝く教育学部の発展と世界に羽ばたく卒業生の方々の活躍を祈念し、お礼とさせていただきます。

令和３年度　同窓会運営基本方針

平成10年に設立され23周年を迎える教育学部同窓会は、活動目的である「会員相互の親睦」と「母校の発展と教育の振興」を原点に据え、組織活動の活性化と財政基盤の確立を目指す。

特に、本年度は新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底しながら諸事業を展開し、会員相互の絆を深めるために同窓生の縦横のつながりに力を注ぎ、会員の同窓会行事への積極的参加と各事業への協力を促進する。

◇重点事項◇

1　新型コロナウイルス感染症の予防対策
○　３密（密閉・密集・密接）回避の徹底
○　マスク着用、手指の消毒の徹底
○　会則の改正（やむを得ず総会等の開催ができない場合等）

2　総務、研修、広報の専門部活動の充実
○　定期総会、懇親会の充実のため学年代表者会と担当学年との連携（総務部）
○　後継者育成事業である「鹿児島の教育を語る会」の充実（研修部）
○　同窓会会報（第23号）の発行とホームページ等による情報の発信（広報部）

3　支部、学年ごとの同窓会への支援
○　支部、学年ごとの同窓会の情報収集と広報
○　教育学部同窓会の歌「我が友よ」の活用奨励
○　県外在住同窓生の組織化のあり方の研究

4　会費納入奨励と運営協力金への協力依頼
○　新入生、卒業生（未納者）への会費納入奨励と納入率アップ
○　運営協力金への協力依頼

5　鹿児島大学同窓会連合会との連携
○　総会・懇親交流会の出席
○　各行事等への参加
○　広報誌（鹿児島大学同窓会連合会報No.32）への寄稿

❒令和２年度 教育学部同窓会一般会計決算❒

１．収入の部

（単位：円）

区　分	予算額	決算額	増減額	備　考
前年度繰越	497,114	497,114	0	
会費	1,520,000	1,140,000	△ 380,000	令和２年度分会費納入者数　114名 『令和２年度納入内訳』 新入生　109名（内２名大学院生） 在学生　２名 既卒者　３名
運営協力金	400,000	366,714	△ 33,286	延べ114名
雑収入	500,000	332	△ 499,668	預金利息
会計区分変更	0	500,000	500,000	特別会計（記念事業積立金から受け入れ）
合　計	2,917,114	2,504,160	△ 412,954	

２．支出の部

区　分	予算額	決算額	増減額	備　考
事務経費	877,000	858,012	△ 18,988	賃金285,500円、通信費91,754円、文具等50,917円 不動産貸付料70,290円、その他359,551円
会議費	520,000	12,000	△ 508,000	学年代表者会
事業費	900,000	704,876	△ 195,124	会報作成費207,570円、会報送料371,976円 支部・学年・教科同窓会等補助5,330円 専門部補助120,000円
同窓会連合会経費	140,000	100,770	△ 39,230	鹿児島大学同窓会連合会分担金　外
会計区分変更	300,000	300,000	0	「鹿大『進取の精神』基金」として特別会計へ組み換え
予備費	180,114	0	△ 180,114	
合　計	2,917,114	1,975,658	△ 941,456	
次年度繰越額		528,502		

❒令和３年度 教育学部同窓会予算❒

（単位：円）

１．一般会計

（収入の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
前年度繰越	497,114	528,502	
会費	1,140,000	1,430,000	※令和３年度入学者数 初等教育コース103名 中等教育コース　72名 特別支援教育コース　16名 計　191名 大学院生19名（内本学部卒業生５名） 合計入学者数　205名 会費納入予定者数 205名×0.7（過去の実績）＝143名
運営協力金	366,714	400,000	
雑収入	332	500,000	懇親会会費及び預金利息
会計区分変更	500,000	0	特別会計（記念事業積立金）から流用
合　計	2,504,160	2,858,502	

（支出の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
事務経費	858,012	939,000	賃金300千円、通信費100千円、文具等70千円、不動産貸付料（事務室借料）104千円、その他365千円
会議費	12,000	520,000	総会、理事会、役員会、懇親会等
事業費	704,876	910,000	会報作成費210千円、 会報送料380千円、 鹿児島の教育を語る会150千円、支部・学年同窓会等補助30千円、三専門部への補助120千円、その他20千円
同窓会連合会経費	100,770	140,000	鹿児島大学同窓会連合会学部分担金100千円　外
会計区分変更	300,000	0	「鹿大『進取の精神』基金」の教育学部同窓会負担終了
予備費	0	349,502	
合　計	1,975,658	2,858,502	
次年度繰越額	528,502		

２．特別会計

（1）記念事業積立金

（収入の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
前年度繰越	7,332,651	6,832,651	
合　計	7,332,651	6,832,651	

（支出の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
一般会計へ流用	500,000	0	
合　計	500,000	0	

（2）大会開催等準備基金

（収入の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
前年度繰越	1,009,986	1,009,986	
合　計	1,009,986	1,009,986	

（支出の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
	0	0	
合　計	0	0	

（3）国際交流基金

（収入の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
前年度繰越	100,000	100,000	
一般会計からの組み替え	300,000	0	
合　計	400,000	100,000	

（支出の部）

区　分	令和２年度決算額	令和３年度予算額	備　考
国際交流基金	300,000	0	「進取の精神支援基金」として拠出終了
学部国際交流活動支援	0	100,000	
合　計	300,000	100,000	

令和３年度 事業計画

４月14日（水）　第１回本部三役会（役員改正について）
５月20日（木）　会計監査
５月26日（水）　役員会
６月14日（月）　理事会⇒書面会議
６月16日（水）　第１回広報部会（「会報23号」の刊行企画について話合い・原稿依頼）
７月18日（日）　第24回定期総会・懇親会⇒中止
９月上旬　第２回本部三役会
９月下旬　「会報23号」の発行
11月26日（金）　第20回「鹿児島の教育を語る会」・懇親交流会⇒中止
12月11日（土）　総務部と54・55・56年卒の学年代表者との打合せ会
２月19日（土）　全学年代表者会（第25回総会・懇親会開催への協力要請）
３月上旬　第３回本部三役会

令和３年度 学部及び連合会の関連行事

４月１日（木）　教育学部新入学生オリエンテーション
⇒同窓会出席なし（会長文書・同窓会への案内のみ配布）
４月７日（水）　鹿児島大学入学式
代表者のみ出席　あとはオンライン⇒同窓会出席なし
４月上旬　同窓会連合会　総会⇒書面会議　懇親会⇒中止
５月中旬　同窓会連合会　第１回幹事会
（連合会報32号発行関係）⇒メール会議
８月下旬　同窓会連合会　第１回役員会（９学部同窓会長）
11月中旬　同窓会連合会　第２回幹事会（連合会報33号発行関係）
12月　きばいやんせ、鹿大生２０２１！
１月下旬　同窓会連合会　第２回役員会（９学部同窓会長）
３月中旬　同窓会連合会　第３回幹事会（総会・懇親会関係）
中〜下旬　同窓会連合会　第３回役員会（９学部同窓会長）
３月25日（金）　鹿児島大学卒業式　式場：県立体育館（会長臨席）
※連合会行事は、当面メール会議。対面会議はコロナウイルス感染症の収束状況で判断

鹿児島大学教育学部同窓会役員

顧問　島田俊秀　坂尾隆　武隈晃　土田理　上谷順三郎　有倉巳幸
名誉会長　池之迫静男　石神正明　松永郁男
会長　東寛治
副会長　久保正和　平澤光徳
理事　伊牟田洋　宮下宣夫　福澤一　堂園範子　後藤千和子　永田憲太郎
長浜真一　上妻和夫　鵜木孝夫　水之浦修　田之上齊　山口幸彦　(新)小路由美子　今林俊一　假屋園昭彦　福満博隆　寺床勝也　瀬筒寛之　南孝一　南貞己　植村哲郎　西種子田弘芳　松清秀一　新名主健一

幹事　立山龍男
監事　江口英雄　(新)原口熙
事務　野間ひろみ
支部世話役
（鹿児島）木山照夫
（姶良）榎本勝人
（川辺）刈川孝子
（日置）早川行良
（川薩）向原翼
（出水）
（伊佐）内倉昭夫
（指宿）樋園正郎
（曽於）下戸勝一
（肝属）肥後昌幸
（熊毛）羽生昌弘
（大島）大野榮三郎

会費納入についてのお願い

教育学部同窓会は、会員相互の親睦、鹿児島大学及び本学部の発展と本県教育の振興を図ることを目的にして、平成10年に設立されました。目的達成に向けて様々な活動を推進するために、**終身会費1万円**を、在学生は入学時に、卒業生は随時納入することになっています。このことについての周知がまだ十分とは言えず、会費未納の卒業生が多数おられます。その方々に対し、事務局からは計画的にお願いをしているところです。

会員の皆様におかれましては、学年部会・教科部会等で、未納の方々へ会費の納入をすすめていただきますようお願いいたします。

※納入の方法については、事務局に直接ご連絡ください。
（TEL・FAX　099－285－7718）

「同窓会運営協力金」募金のお礼とお願い

同窓会の運営は、新入生（在校生や卒業生の未納者も含む）の入会金（終身会費1万円）で賄われております。しかし、近年の教育学部入学者の定数減やそれに伴う新入生の入会金の納入減等により、同窓会の運営は年々厳しくなっています。

そのため、平成30年度から同窓会会員の皆様方に「同窓会運営協力金」募金のお願いをしてまいりました。お陰様で募金呼び掛け当初より現在まで大変多くの篤志をいただき、同窓会活動の運営全般に活用しております。ご協力をいただきました会員の皆様に心から感謝申し上げますとともに、「会報23号」にご芳名を掲載し、お礼とさせていただきます。

そこで、本会を運営する貴重な財源となっている協力金について、今年度も「同窓会運営協力金」の募金活動を実施させていただきたいと考えております。

昨今の厳しい経済状況の中で大変恐縮に存じますが、同窓会の持続的な活動のために事情をご賢察の上ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

1口1，000円でございますが、幾口でもご協力をいただければ幸甚に存じます。

同窓会運営協力金ご芳名

2020年10月から2021年8月23日までに、運営協力金にご賛同をいただいた皆様のお名前です。

ご協力誠にありがとうございました。

昭和27年卒　木山照夫　川井田稔　橘木敏子
昭和28年卒　石原健三　時村洋子　田上邦明
昭和29年卒　海江田幸雄　平岡順義　地福俊幸　海老原一男
昭和30年卒　大塚義雄　植村郁子　福留重盛　町田洋一　池之迫静男
昭和31年卒　堀切國和　石神正明　石堂昌敏　福迫徹　永田信道
昭和32年卒　川田郁雄　田上義人　榎添利光
昭和33年卒　竹之内麗子　笛田茂　安部浩子　中間浩一郎
昭和34年卒　朝隈玲子　村田秀孝　中里康次郎　本野一郎　原田浩幸　三窪幸子　新堂倫子　鈴木和也
昭和35年卒　南賢次　山下秋厚　池田勝雄　玉利勝也　江口英雄　石神崇子　元山昌子
昭和36年卒　鮫島寛行　六反園弘　富永宏
昭和37年卒　櫛山重遠　中尾嘉一郎　荻野継雄　久保矢　大迫征人　有川和秀　冨永亨　行堵康郎
昭和38年卒　橋口リク　立山龍男　西雅雄
昭和39年卒　前原晃二　鮫島達郎　平山亨　山田督郎　福盛知弘　林賢一郎　久保正和　持永八洲郎　越間源孝　竹下美枝子　辻郁トモ子　永江武紀　中野翠　齊脇司　西牟田賢一
昭和40年卒　武田信雄　丸山克介　吉峰明子　米丸恭生　西望　上野金夫　中吉洋子　肥後昌幸
昭和41年卒　鈴木宏欣　松下信夫　西山裕雄　田中國重　川内野一彌　前田成美　福島隆雄
昭和42年卒　山元一八　東井上正人　村山知之
昭和43年卒　東寛治　出口定昭　向井和則　比良信幸　下戸勝一　中橋藤七　原口熙　中里康三郎　向原翼　宮下宣夫
昭和44年卒　家村謙造　泊芳英　小城義也　松永郁男
昭和45年卒　谷口重美　松下敏　有島悟　山口勲　平澤光徳　岩元正治　林満智子
昭和46年卒　小城慎一　新名主健一
昭和47年卒　山下誠　福澤一　石園一郎　堂園範子　川野義博
昭和48年卒　奥村和隆　有村孝　齊藤康裕　長浜真一　刈川孝子
昭和49年卒　三原順子　上屋和夫
昭和50年卒　榎本勝人　大浦慶子　下屋俊裕　鵜木孝夫　匿名
昭和51年卒　篠崎明人
昭和52年卒　永峯修一　繁昌正幸
昭和53年卒　加納雅裕
昭和54年卒　根本桃子　大野清昭
昭和55年卒　室之園晃徳　福留隆二
昭和62年卒　長元武彦
平成4年卒　内野公貴
平成7年卒　山之内太一
平成11年卒　大圓紀香　池島直子
平成12年卒　福島剛士
平成13年卒　今柳田健
平成15年卒　新枦希美
平成17年卒　長谷川学
平成18年卒　匿名
平成20年卒　匿名
平成21年卒　柴山てるみ
平成25年卒　赤石悠香　前田有貴子　村山直子
平成26年卒　加納諒　森博基
平成27年卒　月足恵
平成29年卒　田川浩栄　栫睦乃　砂野優樹
平成30年卒　宝蔵もと子　加納愛梨　中村敦信
平成31年卒(院)　松岡高史
令和2年卒　三浦啓佑　匿名

コロナ禍を乗り越えた先に

鹿児島市鴨池公民館　社会教育指導員
昭和55年卒　山口　修

2月20日、教育学部同窓会学年代表者会が開かれ、私は昭和55年卒の学年代表として出席しました。学年代表者会には、私のよく存じ上げている方が同じ学年代表として参加されていて、大変心強い気持ちになりました。

会では、令和3年度同窓会の懇親会等に関する概要や懇親会の運営及び課題等について協議があり、懇親会は7月18日（日）に行われることになりました。

また、懇親会は、昭和54年卒の先輩方が世話係として担当することが決まっていました。私たち55年卒は、令和4年度同窓会の懇親会世話係になるということでした。

私はこれまで、同窓会の懇親会に出席したことがなかったので、懐かしい先輩や後輩、同級生と再会し、久しぶりの親交を楽しみにしていました。

ところが、7月上旬に、同窓会の懇親会の中止を知らせる文書が届きました。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策のために、昨年度に引き続き中止になったことは誠に残念でなりませんでした。

新型コロナウイルス感染症は、今なお収束の兆しが見えず、人との交流が制限され、窮屈な毎日が続いています。今は現実に耐え、希望を持って前向きに生きる気持ちを持ち続けることが大事だと思います。また、コロナ禍の収束に向けて、新型コロナワクチン接種も始まりました。ワクチンを打つことで、他者への感染や重症化リスクを減らす効果が期待されています。わずかではありますが、明るい光が差し込んできたように感じています。

令和3年度同窓会の懇親会が中止になったことで、私たち55年卒が世話係を担当するのは再来年になります。その頃はコロナ禍が収束し、安心して日常生活を送れる日が訪れていることと思います。同窓会の懇親会が再び盛大に開催されることを願うとともに、世話係として、先輩方や同期への協力依頼をはじめ、懇親会への準備を一歩一歩確実に進めていきたいと思います。

当たり前を素晴らしく

鹿児島市立吉田南中学校保健体育科教諭
平成30年卒　指宿　凌

教員を本気で目指し始めたのは、高校の野球部の監督に憧れを抱いたからだった。監督が、生徒指導の係として全校生徒の前に立たれると、その場の空気が一瞬で凍りつくように感じたのを今でも覚えている。部活動でも、3年間とても厳しく指導していただいた。気の抜けたプレーは絶対許さず、時にはグラウンドから出されることもあった。目標だった甲子園に行くことはできなかったが、人間として大きく成長できた3年間だった。

その後大学へと進み、専門的な講義やゼミでの研究を通して、自分の目標に向けて努力した。大学でも硬式野球部に所属し、全国大会である明治神宮大会出場を目指し、限られた時間の中で効率の良い練習に努めた。

大学卒業後、2年の講師を経て、目標だった保健体育の教員になることができた。現在は鹿児島市立吉田南中学校に勤務し、2年目を迎えた。本校は県総合教育センター研究提携校として、年に1回研究公開を行っている。教科での実証授業や教科論文執筆など、初任校で多くの貴重な経験をさせていただいている。部活動では、女子バレーボール部の顧問として毎日生徒たちと練習に励んでいる。メンバーのほとんどが中学校からバレーを始めた初心者チーム。バレーの技術向上はもちろんだが、人として大きく成長してほしいという思いで指導に取り組んでいる。挨拶、身なりや時間を守るなど、人として当たり前のことをしっかりできる人間になってほしい。これは自分が高校の時に憧れていた野球部の監督がずっと私たちに言い続けていたことだ。「凡事徹底～当たり前のことを素晴らしくする～」は、私の座右の銘であり、吉田南中バレー部のモットーである。恩師から学んだことを今度は私が子供たちに伝えていきたい。当たり前のことを素晴らしくできる、そんな子供たちと共に、私も教師として大きく成長していきたい。

「鹿児島の教育を語る会」の歩み

（過去・現在から未来への架け橋）

～第19回・20回「語る会」開催を中止～

昨年度（令和２年11月）の「語る会」は、新型コロナウイルス対策のため中止せざるを得ない状況となり、本年度も変異株の拡大など、長引くコロナ禍の影響で開催を見送った。

在学生・教職員・卒業生が一堂に集い、教育や人生を熱く語るこの会は、同窓会設立５年目の平成14年に始まった。「在学生との触れ合い後継者事業」として、在学生の考えや卒業生の経験をもとに、発表形式、フォーラム形式、グループ協議形式と推移して議論を深めてきた。

第１回～第５回（発表形式）

第１回～第５回は、各専修学科代表学生16人と卒業生１～２人による発表とその内容に対する質問、意見交換などで協議を深めた。

特に、第４回では、中国南京工業大学の教員・学生11人が参加し、国際色豊かな「語る会」になった。

平成14年の第１回「語る会」の発表文集のあいさつ文の中で、松元兼俊初代会長は、同窓会の立ち上げや名簿づくりの苦労に続けて、本会の在り方への熱い思いを述べておられる。それは、会則第２条目的の後半部分「母校の発展と教育の振興」をどう具体化していくか、ということである。その結果実現したのが、在学生とＯＢによる「語る会」であった。松元会長は、「教育学部当局の絶大な協力を得て、素晴らしい会が開催され、学生諸君の真摯な生き方と考え方に多くを学んだ。」「初対面でありながら、いつもお会いしているような親しさを世代を超えて共感し合えました。」と記しておられる。

第６回～第９回（フォーラム形式）

平成19年の第６回からは、テーマ「教師への道」を設定し、フォーラムによる「語る会」が進められた。卒業生代表による在校生への応援メッセージ「教師を目指す後輩へ」をもとに、附属教育実践研究指導センター教授をコーディネーター、専修学科の代表４人と卒業生代表２人をパネリストとして確かな教師への道が情熱的に語られた。

この４年間のフォーラムで、すべての専修学科の学生代表がパネリストとして登壇し、教師への道を目指していった。

第10回～第18回（グループ協議形式）

記念すべき第10回からは、参加者全員の語らいを増やし充実させる目的で、グループ別の協議形式で進められた。

この年から協議テーマを、第10回～第14回は「人間として大切なこと」、第15回～第18回は「未来への挑戦」と設定した。

各専修学科代表１人が、テーマについての自らの考えや生き方などを提言としてまとめ、それをもとに各グループで論議を深めていった。

また第10回～第12回では、基調講演として、経験豊かでそれぞれの分野で活躍されている方々の貴重な講話をいただいた。

・第10回基調講演「言葉の力」（南日本放送制作部　宮原恵津子アナウンサー）

・第11回基調講演「進取の気風あふれる総合大学を目指して」（鹿児島大学 吉田浩己学長）

・第12回基調講演「鹿児島だからできる私の挑戦」～通訳という仕事を通して～（山﨑道子氏）

「語る会」のもう一つの楽しみは、ＯＢと学生さんたちとのアルコールなしの懇親交流会である。教育や生き方についての熱い意見交換の後、会場を教育学部食堂（エデュカ）に移して心のこもったオードブルやおでんをつつきながら、〝本音〟の語り合いが和やかに展開される。まさに、世代は大きく離れていても「先輩と後輩」の強い絆を実感するひとときである。

（研修部・平澤　光徳）

教師の道

教育学部国語科専修４年　神谷　純玲

私が教師を志したのは、中学生の時である。まだ「この職業に就きたい」という明確な夢はなかった頃、ある恩師との出会いにより教師になりたいと考えるようになった。その教師は、どんなときも生徒一人一人に寄り添い、また教科指導に関しても熱心な姿が印象的だった。私もその恩師のように子どもたち一人一人に寄り添い、夢や希望を与えられる教師になりたいと思った。

そして、小学校の教師になりたいという夢を実現するために教育学部に入学し、現在は国語科を専修している。国語科は読解力や表現力を身に付けるといった点において、全科目の基礎となる科目である。そのため、国語科指導についてより学びたいと考えたため、国語科を専攻した。大学では国語に限らず、教育学や心理学、他教科の専門に関する講義など、多岐の分野にわたって自分の学びを深めることができ、とても充実した大学生活を送ることができている。大学の学びの中で特に印象に残っているのが教育実習である。実習では、座学では学べない様々な現場の実態を肌で感じることができ、教師の大変さ、そしてそれ以上にやりがいや楽しさを味わうことができた。

そんな大学生活も残すところあと半年となってしまった。残り少ない大学生活では、卒業論文のための研究や教材研究を進めるなど、いつでも教壇に立てるように備える期間にしたいと考える。卒業後も同じ夢をもつ友人と高め合い、助け合いながら、教師としての道を歩んでいきたい。

家庭科の教員を目指して

中等教育コース家政科専修４年　坂本　莉帆

私が教員になりたいと思ったきっかけは、中学校３年生の時です。高校受験を控えた直前の模試でＥ判定を出しました。しかし、当時の担任の先生は、私が「志望校を変えたくない」ことを伝えると応援してくださり、クラス全員にお守りを作ってくださいました。そのおかげで最後まで諦めずに勉強を続け、志望校に合格することができました。私はその時、その先生のように生徒一人一人に寄り添って応援する教員になりたいと思いました。

大学を選ぶに当たっても、担任の先生からの励ましやアドバイスをいただきながら、鹿児島大学も志望校の一つにしていました。そして、オープンキャンパスの際、〝住まいるな話〟という模擬授業で、衝撃を受けました。その時に、私は「この先生の講義を受けたい」、「この先生の下で学びたい」と思い、教育学部の家政科に入学しました。

４年生になった現在の研究室は、住居学・家庭科教育学研究室です。この大学を選ぶきっかけとなった先生の下で、同じ研究室の学生と共に学び成長しています。大学では、家庭科だけでなく、数学や幼稚園の教員免許取得を目指し充実した日々を送っています。大学生活も残すところ約半年となり、出会った友人たちと共にお互いの進路に向けて努力しながら過ごしています。これまでの出会いを大切に、友人たちと助け合いながら、家庭科の教員を目指して努力を継続していきたいと思います。

楽しい人生を求めて

学年代表世話役　昭和48年卒　福留　樹

世の中の大事変となったコロナ禍の中、皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓会行事も同級生の飲み会も、また地域行事も軒並み中止や延期になり、寂しい思いです。一刻も早く普段どおりに戻ってくれればと思っているところです。

大学卒業から50年近くがたとうとしています。体も頭も確実に年を重ねてきておりますが、ここまで元気で無事に暮らせていることに感謝しながら、日々を過ごしています。

65歳から自治会長になり現在に至っています。地域には地域に合った組織や方法があり、誰かがその役を担い支えてきました。今度は、その役が自分に回ってきたと思っています。

自治会長の仕事は実に広範囲にわたっています。自治会内の行事、調整を行うだけでなく、行政文書の配布、会合への出席、国勢調査員、民生委員、保健推進委員等の人選。また、里道や市道、漏水等の補修の連絡。これら以外にも、10を超える充て職があり、自治会長になる前は全く分からないことでした。これらの会合も結構多いのも事実です。

これらの活動を支える私の原動力となっているのが、家庭菜園、ゴルフ、週１回の高齢者クラブのグラウンドゴルフです。

特にゴルフは、コースに行く回数が増え、何よりも楽しみです。

そのゴルフの反省会で教えてもらったことですが、ゴルフの発祥の地には、こんな戯（ざ）れ歌があるそうです。

「飛距離が自慢の幼稚園生」
「スコアにこだわる小学生」
「風景が見えて中学生」
「マナーに厳しい高校生」
「歴史がわかって大学生」
「友群れ集う卒業式」

ゴルフの成熟度を表現したもので、ゴルファーとして理想的な生き様が語られています。ゴルフは老若男女を問わず、幅広い年齢層ができるスポーツで、奥行きが深く、なかなか上達を実感できません。ただ、そうであるからこそ、上達したいという意欲がわいてくるものであり、長い間取り組めるものだと思いつつ、暇を見つけて練習場やコースに出かけています。

最後に、同窓会の発展と会員の皆様のご健勝を、お湯の町から祈っています。

編集後記

新型コロナのパンデミックの中、東京五輪・パラリンピックは開催された。多くの課題はさておき、選手の多様な表現に感動し、心からの拍手を贈った。

しかし、我が教育学部同窓会は感染拡大防止のため、今年度も総会・懇親会等の中止を余儀なくされた。会員同士が顔を合わせ、共に学び、懇親を深める機会を持てなかったことは誠に残念である。新型コロナが一日も早く収束し、来年度こそは例年どおりの活動ができるようにと願う。

玉稿をお寄せくださいました皆様に心から感謝申し上げます。

広報部（後藤千和子、上妻和夫、田之上齊、小路由美子）